



新病棟が無事に稼働いたしました。しばらくは旧館と新館での診療体制となり、ご迷惑をおかけすることと申します。何卒ご理解とご協力の程お願いいたします。またT・TAKメンバー同、心新たに地域医療連携に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 生田美苗看護部長に聞く！！



引越しも無事終わりましたが使い勝手はこれからのところも多いと思います。そんな中、本日はお忙しいところありがとうございます。

Q) 新病棟という新しい器になって、看護部の皆さんも患者さまに笑顔で接し“やろう”という意気込みが伝わってきますね。

A) やっぱり新しく綺麗なことは気持ちが良いですし、気持ちも新たになりますね。移転前に看護部全員に集合してもらい、病院への想いや新たな経営方針も踏まえた前向きな決意を話しました。その思いも伝わっていると感じました。

Q) こちらに赴任されてそろそろ1年が経つわけですが、指揮を執られてどう思われましたか？

A) 早いもので赴任して10ヶ月が経ちました。普段私は各看護師長と接することが一番多いのですが、各師長たちは本当に熱い思いがあり、新しい病院に向けて組織を変えていきたいという意識の高まりを感じます。私は現場の熱い思いは、患者さまと看護職員の生の声と受け止め、なんとか実現することが使命だと思っています。

Q) 看護部としてのヒューマニズム・人間性という面で何かメッセージをいただけないでしょうか？

A) 看護は感性が大事だと思っています。よく知性と感性といいますが、どちらが優先かではなくて両方が必要だと思っています。播磨病院の理念は“健康を願う人々の精神と身体にあたたかい医療を”ですが、私は



“精神（こころ）”が一番で、“あたたかい”が買かれているということに感銘を受けて赴任しました。

“精神（こころ）”には感性がないと絶対いけないと思っています。その上に看護の質の向上です。技術も知性と共に磨いてもらえたらなあと思いますね。

Q) 地域医療連携のことについてお伺いしたいのですが。

A) これからは患者さまが安心して医療を続けていくためには、急性期から慢性期まで地域医療連携が中心になって動くべきだと思います。そのことが播磨病院の地域での位置づけや姿勢・あり方、患者さまとの連携という部分、全部にかかってくると思います。退院調整とヘルスケアという2本柱をもとに患者さまが相談しやすく、納得できる体制が重要だと思いますね。

Q) 地域医療連携を考える上でも、“精神（こころ）”に“あたたかい”というところでアクティブに働きかける必要がありますね。

A) 退院調整ひとつをとってみても、各部門に精通した人が一人でも多くいなければと思います。そのため順次研修にも行ってもらっています。職員全体がその意識を持たないと一部の人だけがその思いがあってもスムーズに流れませんよね。そういった意識が高まってくると相生地区の中でますます重要な位置になってくると思います。

Q) 最後に、今後どのように看護部として展開していきたいかを教えてください。

A) 外来・病棟を含め患者さまや家族が気軽に相談できる窓口があるのが理想です。それが開けた看護なのだと思うのです。

看護の中心になるのは主任層だと思っています。主任会を中心にあたたかい医療が発展してくれることを願っています。

また、職員を大事にする人、職員同士で助け合える人は、必ず患者さんに対しても温かく接してくれるものと思っています。これからも変わっていく看護部をよろしくお願いいたします。

生田看護部長、新病院での取り組みを熱くお話しいただき本当にありがとうございました。

今後ともIHI 播磨病院 T・TAK をよろしくお願いいたします。  
お楽しみに！



T・TAK新聞のバックナンバーは  
播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧になれます。